

「英国における日本語リソース開発  
—中等教育向けリソース『カ-CHIKARA-』の開発をめぐって—」

<[http://www.jpof.org.uk/language/teaching\\_chikara.php](http://www.jpof.org.uk/language/teaching_chikara.php)>

国際交流基金日本語国際センター専任講師  
2005-2008 国際交流基金ロンドン事務所日本語教育チーフアドバイザー  
来嶋洋美 Hiromi\_Kijima@jpf.go.jp

キーワード: シラバス、カリキュラム、教材、中等教育

1. 背景

1.1 英国の教育事情

(1) 教育制度

- ・英国では、義務教育の年限が日本よりも2年間長い。
- ・試験が多い。 GCSE (General Certificate of Secondary Education) 中等教育修了資格試験  
GCE (General Certificate of Education) 大学進学に必要  
初等教育は各キーステージ (Key Stage 教育段階) 終了時に全国統一試験

《表1: 英国の教育制度(小学校以上)》

年齢	学年	Key Stage	公立校	私立校	試験
18-			高等教育 大学学部3年間 理工系・語学系4年間 医学系5~6年間		
17-18	13	KS5	大学入学準備の継続教育 Sixth Form College	Independent School (Public School) KS3,4,5 まで一貫教育	GCE 試験 Year13 A2 レベル Year12 AS レベル
16-17	12				
15-16	11	KS4	中等教育 Secondary School	Preparatory School KS2,3 までの一貫教育	KS4 終了時 (義務教育 終了時) GCSE 試験
14-15	10				
13-14	9	KS3	Comprehensive School 普通校 Grammar School 選抜校		
12-13	8				
11-12	7				
10-11	6	KS2	初等教育 Primary School		KS2 終了時 英・数・理の 全国試験
9-10	5				
8-9	4				
7-8	3				
6-7	2	KS1		Pre Preparatory School (KS1 に相当) 私立小学校受験準備	KS1 終了時 英・数の 全国試験
5-6	1				

'Languages for All: Languages for Life'

(2) 英国の義務教育における外国語教育政策

- ・ National Languages Strategy : 国民の外国語学習を強化

を謳い文句にした外国語政策

- ・ 初等教育における外国語必修化 (2010年までに)
- ・ 中等教育 Key Stage 4 では外国語を選択化
- ・ 国家的外国語能力認証制度 'Languages Ladder'

	従来	NLS
KS2:	* →	必修
KS3:	必修 →	必修
KS4:	必修 →	選択

: 欧州評議会の CEFR(Common Framework of Reference for Languages) を土台に。

外国語能力を測定・評価するためのテスト Asset Languages

1.2 英国の日本語教育

(1) 機関数・教師数・学習者数

《表 2: 教育段階別の日本語教育機関数・学習者数・教師数の推移》

教育段階		1993年	1998年	2003年	2006年
初等・中等教育	機関数	98	143	161	150
	学習者数	2,164	6,591	9,700	<b>8,510</b>
	教師数	139	170	210	198
高等教育	機関数	45	53	45	46
	学習者数	1,865	3,464	3,636	<b>3,630</b>
	教師数	133	201	145	127
学校教育以外 (成人教育)	機関数	148	126	94	81
	学習者数	4,069	4,396	2,987	<b>2,788</b>
	教師数	335	491	271	292
全体	機関数	291	322	300	277
	学習者数	8,098	14,451	16,323	<b>14,928</b>
	教師数	607	862	626	617

国際交流基金海外日本語教育機関調査結果より

(2) 中等教育における日本語教育

- ・ 学習目的
  - ①日本の文化に関する知識を得るため
  - ②日本語によるコミュニケーションができるようになるため
  - ③日本語という言語そのものへの興味
  - ④大学や資格試験の受験準備のため
  - ⑤国際交流・異文化理解の一環 (2006年海外日本語教育機関調査)
- ・ 中等教育の Language Colleges (外国語強化校) 約 200 校のうち、半数の学校で日本語を外国語として教えている。
- ・ 教師は、約 6 割が日本語非母語話者、約 4 割が日本語母語話者。

## 2. 『カ-CHIKARA-』開発プロジェクト（2005-2008---）

### 2.1 背景

- ・ GCSE 日本語の標準カリキュラムや教科書がない（GCSE 試験シラバスしかない）
- ・ 中等教育機関の教員は、ロンドンで実施する研修会に参加しにくい状況にある（多忙、遠方、経費の問題など）
- ・ 教育実践の共通条件がわかりにくいいため、研修会の企画を立てにくい

英国の状況に合わせて JFLLC が**独自**に開発した教育方法を提案する

- ・ GCSE 試験対策ではなく、日々の授業を支援するための教材や資料の拡充
  - ◎ 「教科書」ではなく、「リソース」
- ・ 国際交流基金がこれまでに開発してきた日本語教育のリソースの活用

### 2.2 問題の解決に向けた方策と計画

- (1) カリキュラム及び教材作成の土台となる教師用資料を作成し、参考に供すること
- (2) 上記資料をもとに教材を作成し、日本語指導方法の一案として参考に供すること
- (3) (1) (2) の作成物をウェブサイトで公開すること
- (4) 開発したリソースを使った研修会を実施すること

### 2.3 成果

- (1) 開発したリソースの頒布 [ **Website** / CD-ROM / Hardcopy ]
  - ・ 教師用参考資料（シラバス、語いリスト、文型リスト）
  - ・ 教材：「わたし」「学校」「町」：33 サブトピック×ICT を含む 6 種類の教材  
「日本」：7 サブトピック×（読解テキスト+3 種類の練習問題+教師用資料）
- (2) 教師研修会の実施
  - ・ 内容：日本語の指導方法、教材作成、体験授業など
  - ・ 教師にとっての学びの場 + 教師間のネットワーク形成の場
  - ・ JFLLC にとっては、教育現場の動向に関する情報収集

## 3. 『カ-CHIKARA-』開発プロジェクトを終えて

- ・ 中等教育の学習者を対象とした外国語としての日本語教育の意義とは何なのか？
- ・ 外国の義務教育における日本語教育を支援する場合、どのような関わり方がのぞまれるのか？
- ・ 当該国の教育制度の中で日本語教育がある程度確立している場合に、国際交流基金は何をしていくべきか？